

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成28年1月18日

計画の名称	1 都市公園の機能強化と利便性の向上														
計画の期間	平成22年度～平成26年度(5年間)					交付対象	三原市								
計画の目標	○ 土地区画整理事業による良好な市街地の形成を図るとともに、地区内の緑のネットワーク、都市緑化の推進を図り、緑と潤いのある都市空間の整備を行うことで、市内都市公園整備水準の向上を図る。 ○ 日常的なレクリエーション、コミュニティー活動の場及び災害時の避難場所として利用可能な身近な公園整備を促進し、さらに、公園施設の維持管理を事後保全的管理から予防保全的管理へ転換し、施設の更新需要へ効果的・効率的に対応することで、安全性の確保やライフサイクルコストの縮減を図ると共に市内都市公園の利用促進を図る。														
計画の成果目標(定量的指標)	○ 都市計画区域内において、一人当たり都市公園面積を 5.55㎡(H22年度)から 5.56㎡(H26年度)に向上する。 ○ 長寿命化計画策定進捗率を 0% から 100% に上げる。 ○ 三原運動公園の利用者数を111千人/年(H21年度)から124千人/年(H26年度)に増加する。														
定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値														
				当初現況値	中間目標値	最終目標値	備考								
				(H22当初)	(H25末)	(H26末)									
①	市内にある都市公園の全面積のうち、都市計画区域内の一人当たりの面積割合を算出する。 一人当たりの都市公園面積(㎡/人) = (市内にある全ての都市公園の合計面積(㎡)) / (都市計画区域内人口(人))			5.55㎡/人	-	5.56㎡/人									
②	長寿命化計画の策定が完了した箇所を算出する。 長寿命化計画策定進捗率(%) = (長寿命化計画策定済箇所数) / (長寿命化計画策定箇所数(89箇所))			0%	-	100%									
③	三原運動公園の施設利用者数を集計する。 (利用者数の増加率(%) = (H26年度の年間利用者数) / (H21年度の年間利用者数))			111千人/年	-	124千人/年 (12%増)									
全体事業費	合計(A+B+C)	366百万円	A	220百万円	B	146百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		0.0%				
<b>事後評価</b>															
○事後評価の実施体制、実施時期															
事後評価の実施体制					事後評価の実施時期										
本市の担当部局にて評価を実施					平成27年度(事業終了後)										
					公表の方法										
					三原市公式ホームページにて公表										
1. 交付対象事業の進捗状況															
交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-A-1	公園	一般	三原市	直接	三原市	緑化重点地区総合整備事業(東本通地区)	園路広場、駐車場、便所 A=2.0ha	三原市							84
1-A-2	公園	一般	三原市	直接	三原市	三原市公園施設長寿命化計画策定事業	都市公園 N=89箇所	三原市							12
1-A-3	公園	一般	三原市	直接	三原市	都市公園安全安心対策緊急総合支援事業	都市公園 N=9箇所	三原市							124
合計													220		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-B-1	道路	一般	三原市	直接	三原市	市道沼田東町南部67号線 三原運動公園工区	橋梁整備 L=21.1m W=9.25m、道路案内標識 2本	三原市							146
合計													146		
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			
1-B-1	(都)三原運動公園のアクセス道路となる市道沼田東町南部67号線の橋梁整備を、都市公園安全安心対策緊急総合支援事業(1-A-3)と一体的に実施することによって、レクリエーション、コミュニティー活動の場としての利用増進を図るとともに、災害時の避難場所としての防災機能の強化を図る。														
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
														0	
合計													0		
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

- ・東本通3, 4, 6, 7号公園の整備が完了したことにより、都市計画区域内一人あたりの公園面積に加え、地区内の緑のネットワーク形成、都市緑化の推進、緑と潤いのある都市空間が増加した。
- ・長寿命化計画を策定により、ライフサイクルコストの縮減に繋がる、補修・改築を行うべき公園施設が明確となった。
- ・三原運動公園のアクセス道路となる橋梁整備に加え、公園内の施設の更新を行ったことにより、利用者の安全・安心が確保できたとともに、公園の利便性が向上し、施設利用者が増加した。

II 定量的指標の達成状況	指標①（市内にある都市公園の全面積のうち、都市計画区域内の一人当たりの面積割合）	最終目標値	5.56㎡/人	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	5.56㎡/人		
	指標②（長寿命化計画の策定が完了した箇所の割合）	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	100%		
	指標③（三原運動公園の施設利用者数の増加率）	最終目標値	124千人/年 (12%増)	目標値と実績値に差が出た要因	・三原運動公園野球場は、広島県高校野球大会の予選会場として継続利用される見込みで目標値の設定を行っていたが、平成24年度から平成26年度にかけて、予選会場として利用されなかったため、当初見込んでいた公園利用者数を下回る結果となったが、公園全体で見れば利用者数は毎年増加しており、事業による効果が確認できた。
		最終実績値	121千人/年 (9%増)		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
(必要に応じて記述)

- ・三原運動公園は、災害時における救援部隊の終結拠点及び地域防災計画における一時避難地として指定されており、大規模駐車場進入のためのアクセス道路となる橋梁整備を行ったことにより、災害時における避難・救援活動の円滑化を図ることが可能となった。
- ・街区公園7箇所の施設更新を行ったことにより、施設の更新需要に効果的・効率的に対応し、公園内の安全性及び利便性の向上を図ることができた。

3. 特記事項（今後の方針等）

今後は、長寿命化計画の見直しを適宜行いながら、長寿命化計画に沿った公園施設の種類に応じた日常点検・定期点検を行い、公園利用者の安全と利便性を確保するよう適切な維持管理に努めると共に、予算執行の平準化を図りながら計画的な補修・改修及び更新を実施し、施設の延命化によるライフサイクルコストの縮減に努める。